

3

NEC Express5800シリーズ**ソフトウェア編**

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて (124ページ)

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められているソフトウェアについて紹介します。

EXPRESSBUILDER (125ページ)

セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。

ExpressPicnic (132ページ)

シームレスセットアップ用パラメータディスク (セットアップパラメータFD) を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。

本体用バンドルソフトウェア (141ページ)

本装置にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

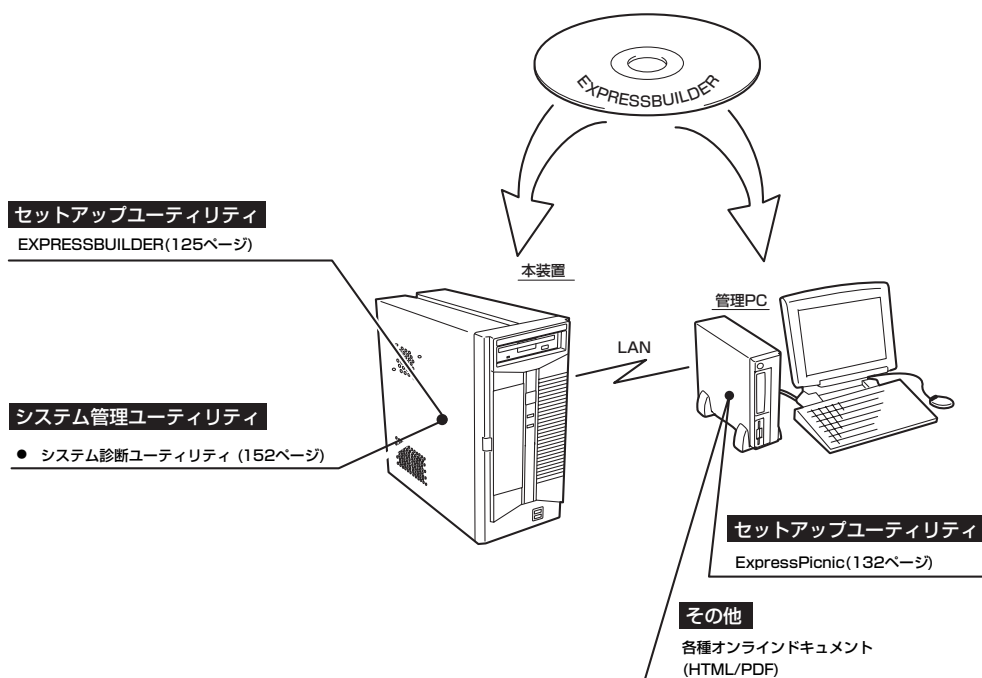
添付のCD-ROMについて

添付のEXPRESSBUILDER® CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



重要

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



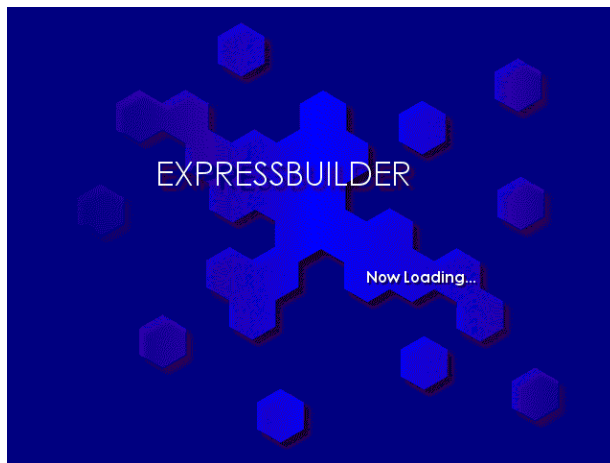
ヒント

ビルド・トゥ・オーダーで購入した装置のハードディスクドライブには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください（これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません）。

ESMPRO/UPSController Ver. 2.1（141ページ参照）
PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J（145ページ参照）

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。



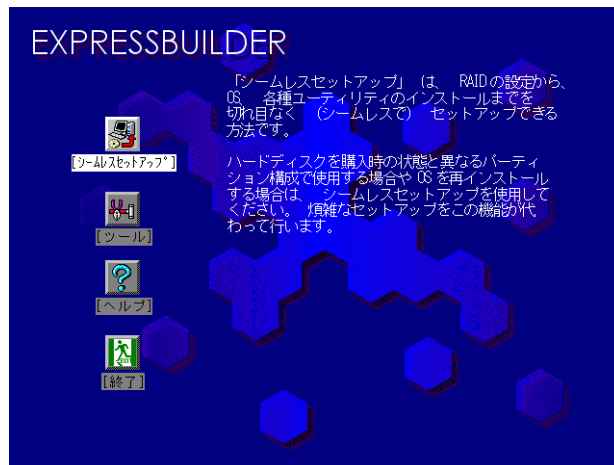
起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- 「EXPRESSBUILDER」 CD-ROMから起動する

EXPRESSBUILDERを本体の光ディスクドライブにセットして、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でシステムを起動すると下に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。



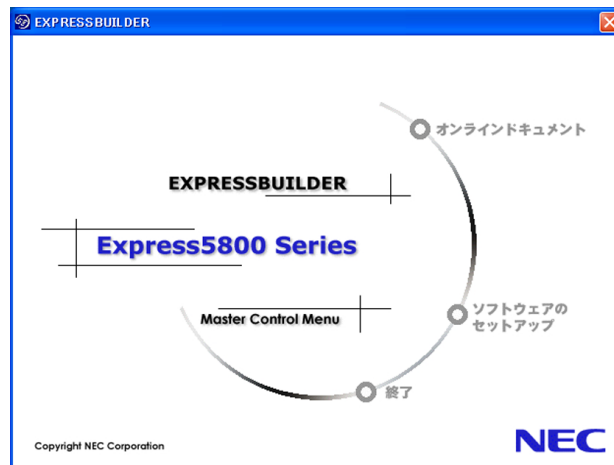
本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows(Microsoft Windows 95以降、またはMicrosoft Windows NT4.0以降)が起動した後に、EXPRESSBUILDERを光ディスクドライブにセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアおよびOS（オペレーティングシステム）のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOS の設定を間違えると、CD-ROM から起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

- － 「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体の光ディスクドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

The screenshot shows the EXPRESSBUILDER top menu with a blue background and several icons. Annotations with lines pointing to specific icons are as follows:

- シームレスセットアップ** (Seamless Setup): Points to the 'Seamless Setup' icon. Text: システムの再セットアップの時に選択します。
- ツール** (Tools): Points to the 'Tools' icon. Text: EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。
- ヘルプ** (Help): Points to the 'Help' icon. Text: EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。
- 終了** (End): Points to the 'End' icon. Text: EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

Additional text on the screen includes:

- EXPRESSBUILDER** (at the top)
- 「シームレスセットアップ」** (Seamless Setup): 「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、OS、各種ユーティリティのインストールまでを、切れ目なく（シームレスで）セットアップできる方法です。
- ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や OS を再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。複雑なセットアップはこの機能は代わって行います。**

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」は本体を再セットアップするときに選択するメニューです。メニューを選択後、いくつかの設定項目を選択するだけで切れ目なく(シームレスで)、オペレーティングシステムのセットアップを行います。



- このメニューを使用するときは、ディスプレイ装置以外の周辺機器を接続しないでください。また、内蔵のハードディスクドライブも購入時の状態(台数・接続)にしておいてください。
- 「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクドライブの内容が失われることがあります。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● システム情報の管理

装置固有の情報や設定のバックアップ（退避）をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、24 ページで説明しています。なお、リストア（復旧）は操作を熟知した保守員以外には行わないでください。

● システム診断

本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。152 ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- ー Windows XP OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows XPをインストールするときに必要なサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

- ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- ー FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

- 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットの「NEC 8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』： <http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。

「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- ヘルプ

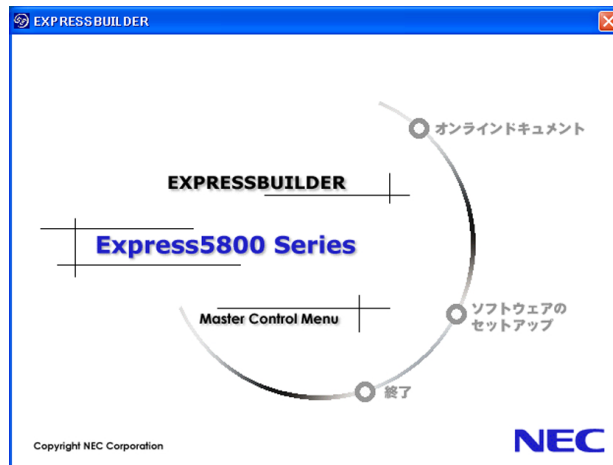
EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows(Microsoft Windows 95以降、またはMicrosoft Windows NT4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

<CD-ROMのドライブレター>:¥MC¥1ST.EXE (32bit Windowsの場合)
<CD-ROMのドライブレター>:¥MC¥1ST_X64.EXE (64bit Windowsの場合)

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、Adobeシステムズ社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows XPをインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

セットアップパラメータFDの作成

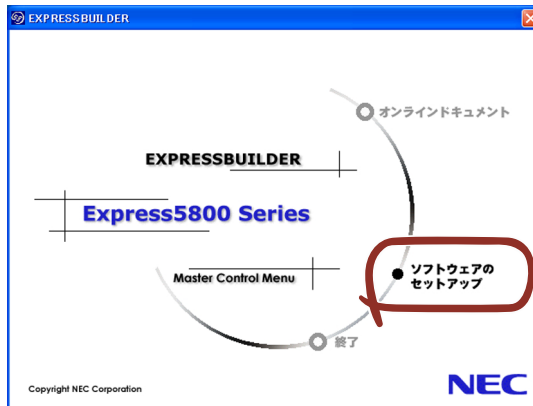
OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



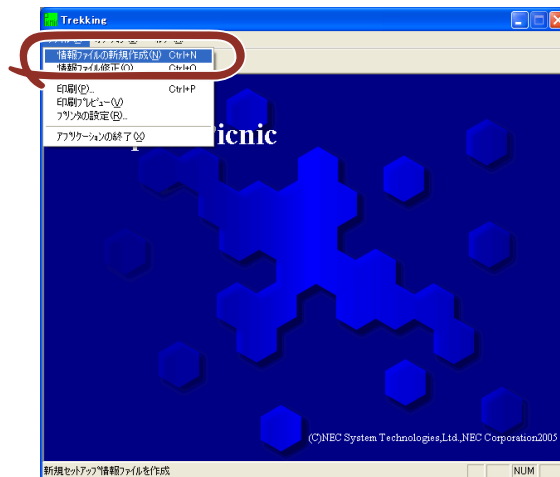
ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。

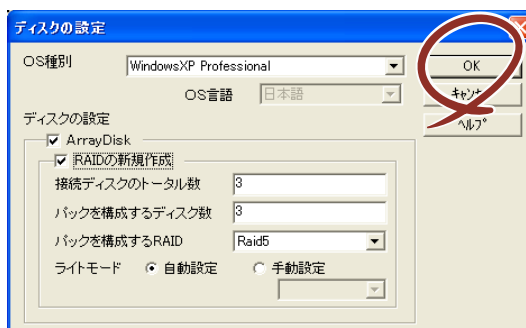
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ] を左クリックする。
メニューが表示されます。



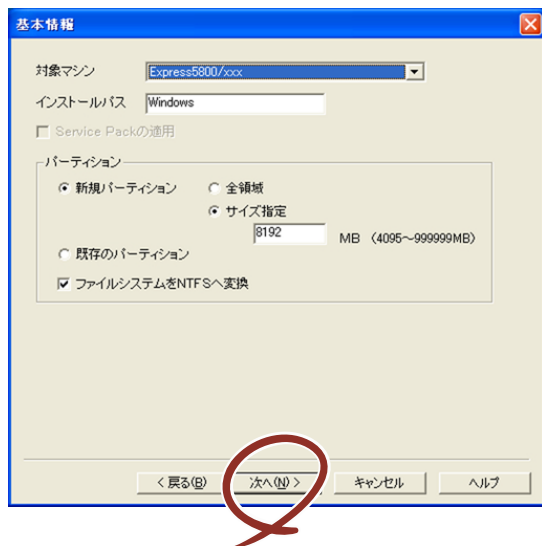
4. [ExpressPicnic]をクリックする。
ExpressPicnicウィンドウが表示されます。
5. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。
[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



6. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。
[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。
セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル指定] ダイアログボックスが表示されます。

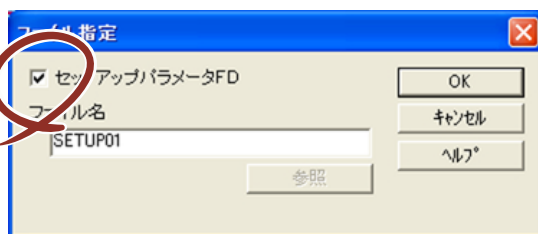


[キャンセル] をクリックすると設定した内容が消えてしまいます。



使用名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語入力することはできません。

8. [セットアップパラメータFD] チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。



9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はオペレーティングシステムをインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル（セットアップパラメータFD）を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの「情報ファイルの修正」をクリックしてください。詳しくはヘルプを参照してください。

追加アプリケーションのインストール

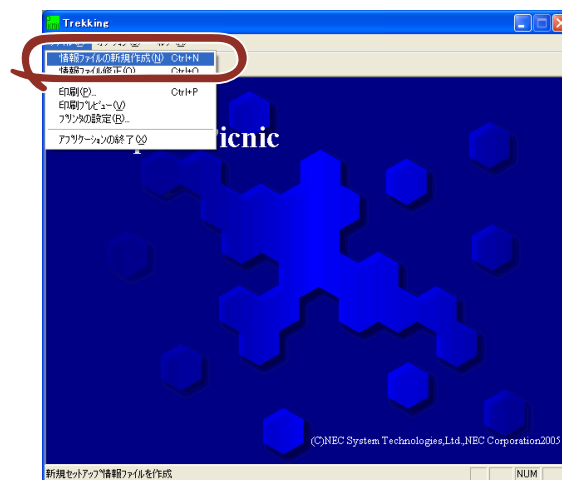
「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（132ページ参照）。
2. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。

[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

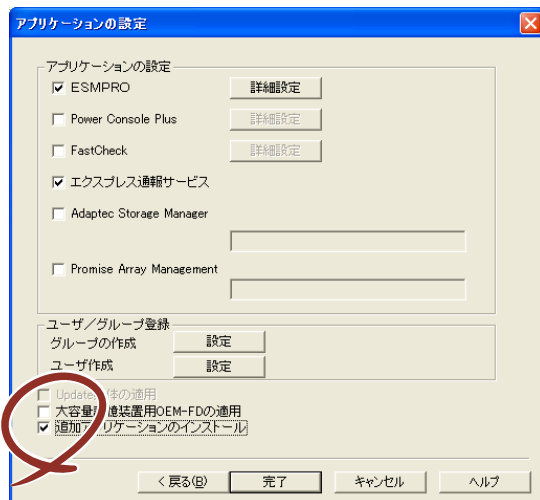


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。



[キャンセル] をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定] が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール] にチェックを入れる。



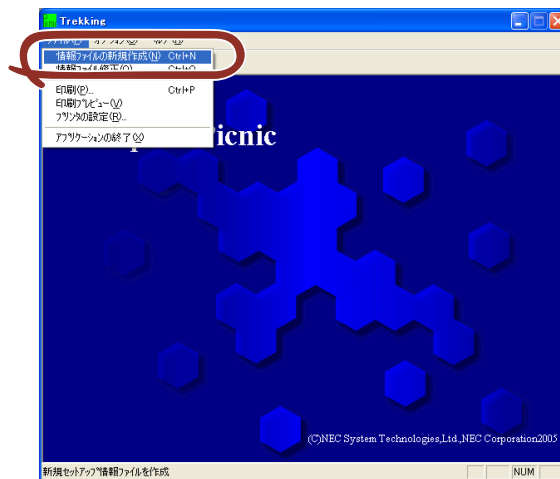
6. [ファイル指定] ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータ FD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

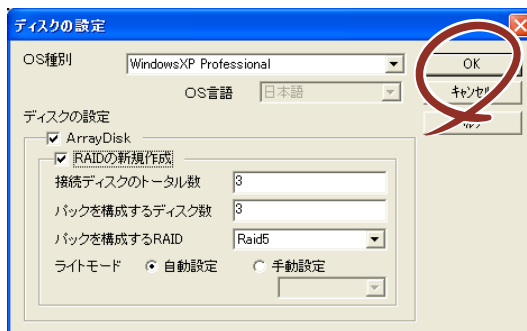
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（132ページ参照）。
2. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。

[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

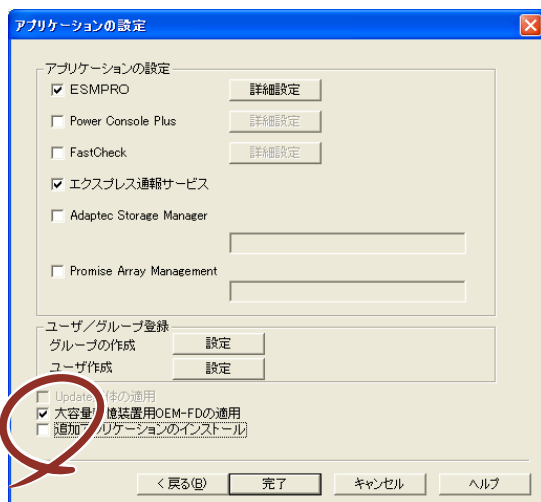


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。



[キャンセル] をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定] が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用] にチェックを入れる。

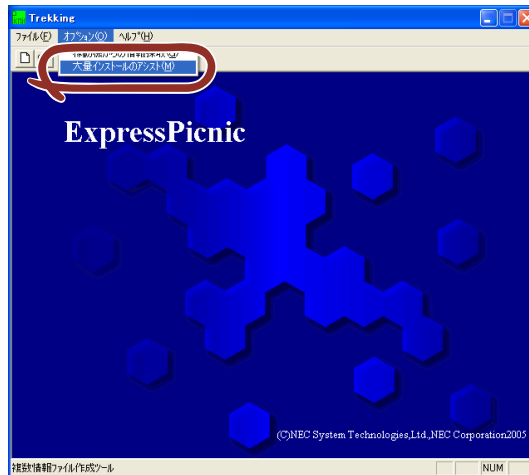


6. [ファイル指定] ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータ FD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

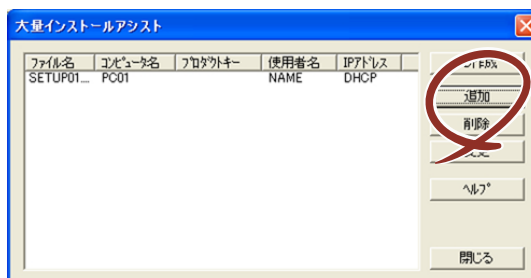
大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

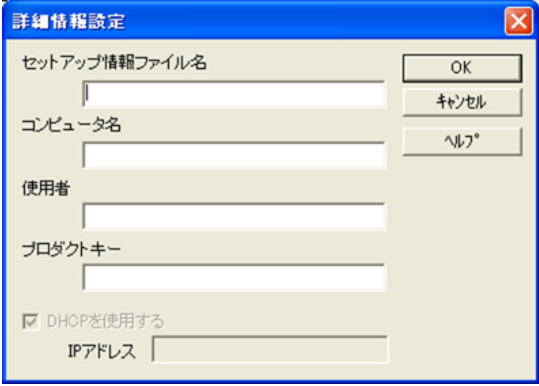
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（132ページ参照）。
2. [オプション] メニューの [大量インストールのアシスト] をクリックする。



3. [ファイルを開く] 画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
4. [追加] をクリックする。



5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。



詳細情報設定

セットアップ情報ファイル名 OK

コンピュータ名 キャンセル

使用者 ヘルプ

プロダクトキー

☒ DHOPを使用する

IPアドレス

6. [OK] をクリックする。
リストに追加した情報が表示されます。
7. ファイル名を選択し、[FD作成] をクリックする。
選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO（ビルド・トゥ・オーダー）でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス（SPOC-I Service）の起動

「サービスコントロールマネージャ」を開き、[SPOC-I Service] を開始してください。

すでに、[SPOC-I Service] が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル] を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

● 確認1 イベントビューアによる確認

Windowsの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア] を起動する。
2. [イベントビューア] のメニューバーから [ログ] を選択し、[システム] を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から [ソース] 名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。

4. イベントの「詳細」を表示し、以下のイベントの「説明」があることを確認する。

〔正常〕 UPS通信開始

〔異常〕 UPS通信エラー（無応答）

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

- **確認2 ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認**

「確認 1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. 「スタート」メニューの「プログラム」－「ESMPRO_UPSController」－「UPSController マネージャ」を起動する。

起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. 「UPSController マネージャ」のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

〔正常〕 UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示される。

〔異常〕 UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示されない。

この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

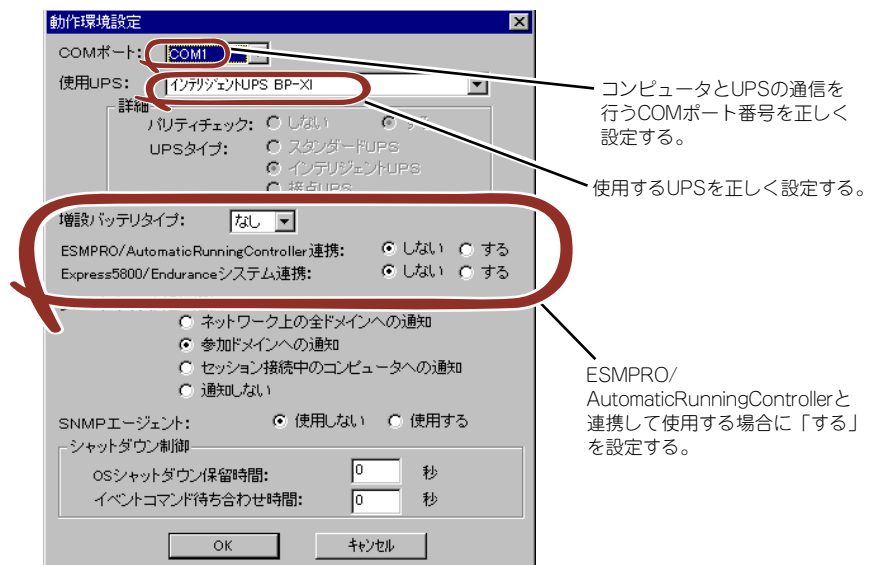
設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート] メニューの [プログラム] - [ESMPRO_UPSController] - [UPSController マネージャ] を起動する。

起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController マネージャ] のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定] を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



3. 正しく設定した後、[UPSController マネージャ] のメニューバーより、[ファイル] - [上書き保存] を選択し、設定を保存する。
4. [コントロールパネル] の [サービス] を開き、[SPOC-I Service] を再起動する。
5. 141ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver.2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在インストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1 (UL 1047-401)」のKey-FD（キーディスク）を使ってアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1 (UL 1047-401)」のKey-FD（キーディスク）を使ってインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション（Serverサービスなど）を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」－「設定」－「コントロールパネル」－「サービス」で次のサービスを停止する。

SPOC-I Service

ESMPRO/ARC Service

SNMP Service

4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMを光ディスクドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1 (UL1047-401)」のKey-FD（キーディスク）をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。
ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。
7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO（ビルド・トゥ・オーダー）でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態インストールされています。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス (UPS-APC PowerChute *plus* Service) の起動

[コントロールパネル] の [サービス] を開き、[UPS-APC PowerChute*plus* Service] を開始してください。すでに [UPS-APC PowerChute*plus* Service] が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル] を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

● 確認1 イベントビューアによる確認

Windowsの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア] を起動する。
2. [イベントビューア] のメニューバーから [ログ] を選択し、[システム] を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から [ソース] 名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの [詳細] を表示し、以下のイベントの [説明] があることを確認する。

[正常] UPSとの通信が確立しました。

[異常] UPSとの通信が確立できません。

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus* の設定を変更してください。

● 確認2 PowerChute *plus*のGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート] メニューの [プログラム] - [PowerChutePLUS] - [PowerChutePLUS] を起動する。

起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。

2. [PowerChutePLUS] のメイン画面 (チャート) でUPSの情報が表示されていることを確認する。

[正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。

[異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレースアウトで表示されている。

この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート] メニューの [プログラム] - [PowerChutePLUS] - [PowerChutePLUS] を起動する。

起動方法の詳細は、PowerChute *plus*の「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザズガイド」を参照してください。

2. [PowerChutePLUS] のメニューバーより、[構成] - [通信パラメータ] を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



3. 正しく設定した後、[OK] をクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、[システム] - [別のサーバを監視] を選択し、再度監視するサーバを選択する。
4. 145ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール（再インストール）については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。